

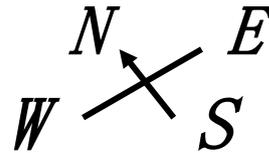
2017年11月1日

第282号

藤 沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

主
な
記
事

- ・浜岡原発見学ツアー
- ・地震怖い!? 正しく知って備えるのが一番
- ・朝鮮人の人権 ・放射能測定値
- ・ジェット気流発見にまつわる話し

福島原発事故被災地 浜通りを見学

田んぼの稲穂が色づき黄金色、新幹線での車窓から見える東北方面は見事な景色でした。

9月24日、バスは郡山からいわき市、浪江町へと向かい、あたりは緑の濃い山々。福島はこんなところ?、安達太良山も少し見えました。

原発事故から7年目、やっと福島を訪れるチャンスがうまれました。今の福島原発被災地を案内して下さったのは「原発被害いわき市民訴訟原告団」の伊藤さんで資料をもとに詳しく説明して下さいました。

帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除区域の3つに分かれる原発から20km圏内で、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、広野町の所どころで下車して説明を聞き、風景を目にしました。

常磐線が通っていた3.11以前は穏やかな日常があったのだろうと思いをはせました。全住民が現在も避難しているのは双葉町と大熊町、新築後すぐに居住できる状態の家がそのままローンだけが残った住宅団地もありました。楡葉町は全住民が避難した区域であり、2015年9月5日にいち早く解除されましたが、現在は13%しか戻ってきていないと言います。町民の憩いの場である天神岬公園から見渡すと海が見え、東電火力発電所の煙突が2本、あとは原発の汚染物処理のための仮置き場がシートに覆われてずらりと遠くまで並んでいました。参加者が岬に立ち「故郷からの手紙(梅原司平作詞・作曲)」を歌い始め、それは楡葉町のことを描いた歌で涙が出てきました。竜田駅舎は津波で全壊し新たに建設されました。原発関係の労働者の宿舎が多く住民よりも多いので町の形態が変わったそうです。道路を隔てて区切られた帰還困難区域と居住区域、鉄製の通行止めの柵がどの家にも、道路にも。桜並木だけは通れました。イノシシに荒らされた家もあり、原発労働者に向けたポスターには「派遣手当を増額させた労働者がいます」「1日2万円 班長は10万円」などと書かれていて、これが労働者が相談のきっかけとなったと言います。

言葉で尽くせない光景に触れ、これから先どう生きていくのか住民の思いが伝わって来ます。

福島での「福島生業(なりわい)裁判」は住み慣れた生活をもと通りに返せと起こした訴訟で、今年10月10日に判決があり、東電と国の責任を認めました。しかし生活はもと通りにはなりません。荒れ果てた風景を目にしたとき、復興はできてもこの先、住むには健康への不安との声も聞いていますので計り知れない災難をもたらしたことを実感できました。私たちは原発依存ではなく再生可能な自然エネルギーに変えていくことができるはずです。

(荒井)



楡葉町天神岬からの風景

浜岡原子力発電所見学バスツアー

10月7日、22人を乗せたバスは、物理の羽角教師から、期待以上の詳しくまた、少々難しい放射能の講義を聞きながら、浜岡原発に向かった。

東名高速の渋滞で1時間近く遅れて御前崎に到着、「浜岡原発を考える静岡ネットワーク」（略称浜ネット）の方々に迎えられ、原発近くに住む伊藤実氏から約50年に渡る不安と苦しみ、そして広瀬隆を呼んでの学習会や裁判等の活動の話を知ることができた。

初めは原発景気で町は潤ったが、白血病など健康被害がおこり、原発の故障や水素爆発などで裁判を起こした。敗訴したが2009年に1,2号機は廃炉となり、福島原発事故後は3,4,5号機が止まり、今は住民の半数以上が原発反対との事。



（浜岡原発を考える静岡ネットワークと交流）

それから中部電力の浜岡原子力館を見学、展望台から浜岡原子力発電所の全貌を見渡した。最近できた防波壁は高さ22mもあるのだが、発電所がその前に大きく立ち並び、地下の断層(本当は活断層)を避けて5基があちこち向きを変えて建っている。圧倒されるようだ。

救われたのは、発電所の両側の海岸に10数機の風力発電機が大きく羽を回していたことだ。中部電力の関連会社が建てたそうだ。誰かが、中部電力はもう再生エネルギーにすら替えしているのではなどという？

原子力館の中には実物大の原子炉模型や防波壁模型があり、迫力満点。原子炉模型はスイッチで制御棒を下げて核反応を起こす様子が見えた。

活断層の上に建つ世界一危険な浜岡原発は廃炉にと強く思う一日だった。 (青柳節子)

参加者の感想 (アンケートから)

○現地との交流について

・原発景気の話が聞けて、地元ならではの話で良かった。

・なくなっても経済は心配ないというのが印象的。

〈藤沢エコネットニュース282号〉

・原発反対を訴えて赤扱いされて小さくなって暮らさなければならなかったとは、とても意外でした。



（浜岡原子力館内、中央が原子炉模型）

○全体を通じ、一番心に残ったこと

・浜岡原発の規模の大きさ、津波地震対策に“大丈夫”はない。

・先生の講義は、久しぶりに学生に戻り、学習出来て無駄なく今日は1日過ごさせていただきました。

・原子力発電には、巨額のお金がかかっていることが、良く分かりました。

○今後興味ある活動 ・脱原発 12人

・学習や提言活動 11人 ・地震防災について 9人

○その他気づき、感想

・博識の先生に感謝。こんな先生に孫を学ばせたい。

・いろいろな事に気づいてよかった。企画が良かったと思う。

・原発がなくとも電気が賄えること、ひとたび事故がおきたら取り返しがつかないことを肝にめいじたい。

地震怖い!

正しく知って備えるのが一番

10月8日、湘南のなぎさを守る藤沢市民の会主催、藤沢エコネット協賛の勉強会(講演会)が藤沢市民会館で開かれました。講演のテーマは「地震怖い!? 正しく知って備えるのが一番」で、講師は元県立湘南高校教諭で活断層研究者の浅見茂雄さんでした。

南海トラフによる地震が30年以内に起こるだろうと騒がれています。これは太平洋プレートの移動により起こる地震です。今回話を聞いたのはこれとは別で(関連はあるが)三浦半島活断層による地震のことです。三浦半島活断層は6年前の東北地方太平洋沖地震の影響で、いま、とても動きやすくなっています。

昨年発生した熊本地震は2つの活断層が同時に動いた地震でしたが、三浦半島で起こるかもしれない地震も、2つ以上の活断層が連動して起こる地震、といわれています。

三浦地区では活断層の上に平気で家が建てられていますが、これを止めてもらう法律は無いそうで、野放し状態のようです。幸い藤沢には活断層はないとのこととホッとしました。会場からは「地震の予測はできないのでしょうか？」との質問がありましたが、予測はできないとのこと。ではどうすればいいのでしょうか？との質問には「地震は200年から20,000年に一度の頻度で起こるのだから、地震に逢ったら運が悪かったと思ひましょう」とのこと。ナルホド！

でも、何か・・・

地震が起きたとき、ほとんどの人はスマホ・ケイタイで連絡を取ろうとするでしょう。でも、災害時の通話は「ほぼ繋がらない」と思った方がいい。そこで直接連絡がつかないときでも家族の無事を確認できる方法を「家族の取り決め」として話し合い、家族全員で共有しておくことがオススメです。(連絡先リスト、落ち合う場所を家族全員で常時携帯する) 災害時に提供される災害用伝言ダイヤル《171》です。

「湘南のなぎさを守る藤沢市民の会」本阿弥光彦

朝鮮人の人権「地図にない - アリラン峠」

日本全国にアリラン峠と言われる所が多々ある。もちろん明細地図にも載っていない。調べると、人権無視で多数の朝鮮人が落盤事故やリンチで殺された人達の共同墓地がある。その遺族が身を寄せ合って暮らす場所でもある。それは北九州筑豊にも何か所もあり、命日には同胞が寄り集まってアリラン峠を歌う。歌声が悲しく聴こえてくる。

私が憧れていた兄貴分とその妹2人と母親4人も近くのアリラン峠で暮らしていた。母はボタ山でボタひろい。兄貴分はセメントの原料の石灰を切り出す作業を、学校をやめて一人前に働いていた。彼の熱血漢の父親は、終戦直前の米騒動で最後まで抵抗し、憲兵隊に銃殺されたのだった。

8月15日で解放され帰国すると思っていたが、その費用もなく、セメント工場に逃げ込んできた人たちだった。そして兄貴分の母はセメント工場の賄

〈藤沢エコネットニュース282号〉



「筑豊の子どもたち」土門拳

い婦をし、彼は石灰の切り出し抗夫であった。妹の朝子は来年小学校入学予定。一番下の子は栄養失調で死亡していた。炭鉱と違って上にあるセメント工場は人にやさしく、人道的な体質であった。「憧れの兄貴分が生きてい

る」と分かり、無性に会いたくなった。父に頼み込んで香春岳の石灰採石場に行った。そこは飯場といって、石工が寝泊まりできる施設だ。兄貴分たち3人と他に、その親類5人がいて、にぎやかに出迎えてくれた。終戦直後の食糧難の時、よくこんなに大ごちそうが!!と感心した。一皿食べるごとに「アリランの歌」を歌い、すすり泣き、最後に抱き合って大泣きするのだった。私と父も別れ際に涙が流れた。

戦争が終わり「8月15日は解放の日」と称して朝鮮人をまず解雇し、炭鉱を閉山した。日本人と取引して、甘い汁を吸った同胞の朝鮮人は、いち早く隠れるように帰国したが、多くの朝鮮人は帰る旅費もなく、アリラン峠に身を寄せ合って生き延びたのだった。セメント工場に来た兄貴分一家は運がよかつたとしか言えない。

—つづく—
(国枝 健)

(アリランの歌)

「アリラン、アリラン、オ、アリランの丘をゆく
アリランの1 2の丘のいま最後の丘をゆく
天高く、千々の星、人の世に世々のなやみ
アリラン、ア、アリラン、オ、アリランの丘をゆく
アリランは悲しみの山、
アリランの道は再びもどれぬ山路、
アリラン、アリラン、アリラン—アリランの丘をゆく」

(参考資料) アリランの歌 (ニム・ウェールズ著 岩波文庫)
地図にない「アリラン峠」(林えいだい著 赤石書店)



ジェット気流発見にまつわる話し
(シリーズ15) 風船爆弾計画の実態

こうして、1944年8月には、試験的な放球が行われるようになった。8月29日に実施した放球試験の結果には、アメリカ上空に達するまでの3日間で刻々高度が変化する様子が描かれている。日没時に高度が上昇する様子、バラスト投下で高度を制御する様子が読み取れる。この2ヶ月後から実際の風船爆弾攻撃が開始され、翌年の4月上旬にかけて合計9,300発が北米大陸へ向けて放たれた。最も頻繁だったのは、1945年の1月と2月で、それぞれ2,500発が放球された。

大石和三郎が夢見たもの

科学の発展を考えると強く感じるのは、地味な作業を重ね最初に未知の現象を発見した人物の学術的な貢献度が非常に大きいという点である。例えば、レーヴェンフックは1674年に独創的な発想で顕微鏡を発明して微生物を発見したが、顕微鏡の世界に没頭し自分の趣味の域を超えることはなかったといわれる。その後、顕微鏡の視界にいた微生物と病気の間接関係を解明したのは約200後のパスツールだった。では、1926年に大石が観測した冬季日本上空に現れる強風層に関する知見は、高層大気の大気学の発展にどのように寄与したのだろうか。この問いに対して、さまざまな答えが頭に浮かぶ。気象学史のなかで、大石が強風層を観測した直後の1930年代は、上層大気の流れの議論が活発に行われた10年間としてとらえられていた。中緯度の風の乱れの鉛直構造に注目が集まり、それらの構造を支配する物理的な概念が確立された時代であった。もし大石が書いた論文が英語だったなら。未知の現象を解明しようとする純粋な好奇心に導かれて大石は研究を行い、世界平和へ向けた社会的活動ともいえるエスペラント語の普及の一環として、彼は自信をもって論文を書いた。エスペラント語で。彼の経歴からすれば、英語での執筆も十分可能だった。(つづく) 林 陽生 (NPO シティ・ウォッチ・スクエア理事長)

ECONET INFORMATION

▲講演会 「ワクチンの副作用について」
白田篤伸氏 (バイオハザード予防市民センター代表)
11月5日(日) 13:30-16:00 村岡公民館 1F
主催:武田問題対策連絡会 0466-87-4922

▲ヨットで体験セーリング

11/3(金) 11/4日(土) 11/5日(日) 11/12(日)
葉山発 下田発 浜岡原発を洋上から見るクルーズ~福田漁港着(磐田市)など(チラシ見てネ)
・参加費 2,200円~2,500円 詳細はお申し込みの方へ送ります

武本匡弘(日本サング礁学会会員)

お申し込みは→takemoto@jcom.zaq.ne.jp

☎046-877-5464

▲福島の子どもたちとともに・湘南の会

講演会と総会 11月4日(土) 13:30~
場所 日本大学 1号館 3階 133教室
講演「福島原発事故・放射能公害地域、飯館村の今と将来を考える」講師 糸長浩司(日大教授)
どなたでも参加できます 参加費無料

▲みんなの消費生活展

一元気な子ども優しい暮らしー
11月18日(土) 湘南台市民センター
10:00-16:00 展示 ワークショップほか

▲第22回ふじさわ環境フェア

12/9(土) 9:50~ 藤沢市民会館
展示 体験 環境クイズ 飲食ブースほか
詳しくはチラシをご覧ください!
主催 藤沢市・藤沢環境フェア実行委員会

▲藤沢エコネットから

◆会員募集=年会費・購読料→2000円

◆事務局会議 11月10日(金) 14:00~
市民活動プラザむつあい

《編集後記》今年のノーベル平和賞は101カ国468の提携組織が活動する核兵器廃絶国際キャンペーン ican だった。日本ではピースボートなど数団体が提携。7月の核兵器禁止条約採択実現へ大きな力を発揮した。核廃絶は世界中みんなの願い。なのに日本政府は核禁止条約に賛同せず、核廃絶決議にも盛り込まず、ひんしゆくをかった。核禁条約の早期署名批准とともに脱原発キャンペーンを!(A)

放射能測定値 (HORIBA Radi) 単位 (μSv/h)

10/7	浜岡原発	原子力館展示室	1F	0.10
10/7	〃	原子力館3階	展望室	0.05
10/7	〃	原子力館前		0.04